

Town Topics

広報誌で紹介した写真またはデータを希望者に提供します。

お申し込み

情報課広報広聴係

TEL 23-3069

SUNキューフェスティバル

(7月10日)



今年のSUNキューフェスティバルはYOSAKOIソーラン祭り道央支部大会と同時開催され、約2,500人の来場者で賑わいました。丸太切りコンテストや幼稚園・保育園対抗の綱引き大会では、白熱した戦いにたくさんの声援が送られました。

道央支部大会が行われたYOSAKOIは、道内各地から26チームが参加し、雨にもかかわらず元気な踊りを披露して会場一体となって盛り上がりました。

切花の即売会、フリーマーケット、飲食コーナーにもたくさんの人が集まり、会話をしながら買い物を楽しむ町民の姿がありました。



ふくろう街道を花で一杯に

(6月25日)



日頃から自分たちの手でまちづくりをしようと活動している「ふくろう街道景観保存会」が、6月にふくろう街道と名付けられた道道当別浜益港線で花壇作成やゴミ拾い活動を行いました。

この日の作業には、関係町内会や老人クラブなど8団体から200人が集まりたくさんの車が行き交う中、サルビアやマリーゴールドの苗2,000株を移植したほか、チューリップの球根約1,300個を植えました。

2時間の作業で花壇はきれいな花で一杯になり、参加者は「町をきれいにする活動をどんどん続けて行きたい」と話していました。

元気一杯 キッズフェスティバル

(7月23日)



石狩管内の商工会が合同で、子供たちが楽しめるイベントを実施しようと「キッズフェスティバル」を白樺公園で開催しました。

当日は北広島、厚田、新篠津、浜益、当別の商工会が各市町村の特産品などを販売したほか、子供たちが自分のお店を出す「キッズチャレンジショップ」では、お客さんに元気な声で呼びかけたり、商品を渡したりするなど、お店の楽しさや難しさを体験していました。

ビンゴ大会や映画上映会もあり、会場には夏休みに入った子供たちがたくさん訪れて大いに盛り上がっていました。

用水路が与える景観を再発見

(7月6日)



当別地区地域用水対策協議会が、「みくまりの郷・再発見」と題して、用水路沿いの自然や景観に目を向けようと参加者をつどい、青山にある「当別頭首工」から「水田発祥の地」までの約10kmを歩きました。

この日は、小雨模様の天候でしたが、20人の参加者はグループに分かれ約2時間かけてゆっくりと用水路沿いを歩き、景観や生息する生物などじっくり観察し写真を撮っていました。午後からは、撮った写真を地図に貼り「みくまりの郷・再発見マップ」をなど作りました。参加者は田園風景が広がる中に、美しい景観があることを改めて実感していました。

赤い羽根パークゴルフ大会

(6月25日)



「赤い羽根・歳末たすけあい」の募金活動を行っている当別町共同募金会がチャリティーパークゴルフ大会を開催しました。

120人が参加したこの大会は、2カ所にチャリティーホールを設置した特別ルールで行われ、参加者は、募金をしながらパークゴルフを楽しみました。

参加者の善意で98,972円の募金が集まり、プレー後は「パークゴルフと募金活動が一緒にできて気持ちがいい」とどの人も満足した表情でした。

集まった募金は、町内の福祉事業や道内の福祉施設などで役立てられます。

学生と農家の交流 農家ステイ

(7月23日)



北海道医療大学生に農村の魅力や農産物本来のおいしさを味わいながら当別の良さを伝える農家ステイがスタートしました。

「学生生活を送る当別町を知りたくて申し込んだ」という1年生の3人は、ハレルヤ農産でソーセージ作りに挑戦しました。3人は、加工機など初めて見るものばかりで驚いた様子でしたが、コツを教えてもらいながら、真剣にソーセージを作っていました。

体験を終えて「大学生活以外にもこのような経験ができ、とても良かった」と充実した表情で感想を話してくれました。

お寺で七夕コンサート

(7月7日)



お寺で音楽を楽しみ、豊かなひとときを過ごしてもらおうと有志が集まり実行委員会を結成し「七夕コンサート」を全久寺で開きました。

8回目を迎える今年は東京でライブ活動を行っている「トリアングロ」というグループとバイオリニストの里見紀子さんのラテンジャズを中心としたコンサートで、テンポのよい軽快な演奏が会場に響き、約200人の聴衆を魅了しました。

また境内では、ビアガーデンも開かれ、おつまみやスタッフ手作りのカレーなどを食べながら、くつろぐお客さんの姿が見受けられました。